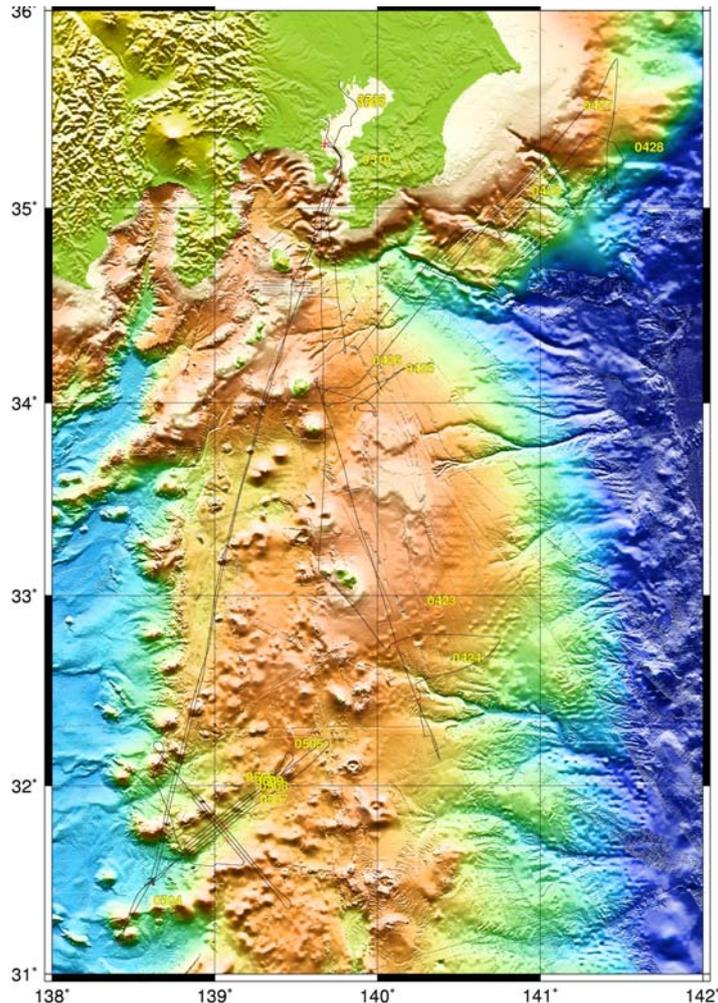


提出日平成20年6月30日

## クルーズサマリー

### 1. 航海関連欄内容：

- (1) 航海番号・使用船舶：KR08-04・かいれい
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成20年度「伊豆小笠原海域における地震探査調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：三浦誠一・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：
  - 1) 金田義行・海洋研究開発機構、
  - 2) 小林励司・鹿児島大学
- (5) 課題受付番号・研究課題名：
  - 1) 伊豆小笠原島弧の地殻進化過程解明 -IODP Project IBM 為の構造研究-
  - 2) 統合国際深海掘削計画(IODP)掘削プロポーザル(提案番号707:南関東アスペリティ地域のライザー掘削及び長期孔内計測)のための事前調査研究
- (6) 航海期間・出港地～寄港地～帰港地：  
平成20年4月22日～5月10日・横浜新港～晴海埠頭
- (7) 調査海域：房総沖、北部伊豆小笠原
- (8) 船舶の航跡図：



## 2. 本文：

### (1) 目的：

地球内部変動研究センターでは伊豆小笠原島弧の地殻進化過程を解明するため、平成16年度より伊豆小笠原海域において重点的に調査を実施している。伊豆小笠原海域は、海洋性地殻が海洋性地殻の下に沈みこんで生成された海洋性島弧地殻から構成されている。本調査では島弧および海盆の構造や変形の特徴を捉えることを目的とする。本航海のデータは、IODPプロポーザル“Project IBM”において提案している掘削地点周辺のサイトキャラクターションに資するものとなる。さらに、測線提案型公募によって採択された房総沖においても反射法地震調査を実施する。

### (2) 実施項目：

#### 1) マルチチャンネル反射法地震 (MCS) 探査

総容量 7800 立方インチのチューンドエアガンレイを震源部とし、グループ間隔 12.5m で 444ch のハイドロフォンストリーマーを受震部とする MCS システムを用いて、房総沖および北部伊豆小笠原にて MCS 探査を実施した。この MCS システムは平成 19 年度末に高精度化をはかるために更新したものであり、作動確認および性能確認も併せて実施した。

#### 2) 海底地震計 (OBS) による波形観測

更新した MCS システムの波形観測を行うため、北部伊豆小笠原での MCS 調査の際に OBS を設置した。

#### 3) 海底地形・地磁気・重力観測

航海中は海底地形・地磁気・重力観測を連続して実施した。海底地形は SEABEAM2112.004 によって、地磁気は船上三成分磁力計によって、重力は船上重力計によって観測した。

#### 4) XBT

海底地形調査の音速補正用に XBT を 2 箇所で行った。